

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 山梨県立巨摩高等学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒400-0306

山梨県南アルプス市小笠原1500-2

E-mail info@ko.kai.ed.jp

Website http://www.ko.kai.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 351名 女子 347名 合計 698名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

当校は、「進修実践」を学校理念として、ESDを自ら学び自ら考える態度を育成するものと捉え、ESDの実践を通して自主・自立の精神とコミュニケーションの力の育成を目標とした。

具体的には、ボランティア、地域の自然環境の保全、国際理解を柱に、①フードバンク・スポーツボランティアに係わる活動、②櫛形山の環境調査・ホテルの放流に係わる教育、③米国を知る研修に係わる学習、④韓国・インドネシア研修に係わる学習を行った。

① フードバンク・スポーツボランティアに係わる活動

7月後半及び11月～1月の2期にわたりフードドライブ活動を実施した。子どもの貧困が地域の大きな社会問題となっている現状を知り、地域の子どもの笑顔に繋がることを願って食料品の回収に取り組んだ。また、この活動を通して感じたことを2年生の生徒1名が県のユネスコ主張大会で発表し最優秀賞を受賞した。10月28日に実施された特別支援学校スポーツ大会に1年生から3年生まで約170名の生徒が競技補助役員、学校担当のボランティアとして参加した。競技運営の補助を行うとともに、特別支援学校の生徒との交流も図ることができ、福祉について考える良い機会となった。

② 櫛形山の環境調査・ホタルの放流に係わる教育

「櫛形山の環境調査」・・・白根高校と合同で櫛形山トレッキングコース周辺の植生調査を行った。外部指導者にご指導頂きながら櫛形山に設置した調査区画の植物の数を計測した。また、調査結果をまとめ、サイエンスフェスタと南アルプスユネスコエコパーク活動報告会で発表した。

「ホタルの養殖と研究」・・・5月下旬～6月上旬にかけて種ホタルの捕獲を行い、生物室内で産卵・孵化した幼虫を養殖し、3月に放流するサイクルを平成26年から行っている。今年は養殖が上手くいかなかったが、この経験を後輩に引き継いでいく。また、同時にホタルの光り方や形態などを比較する研究を行い、県の芸術文化祭の自然科学部門・サイエンスフェスタ・南アルプスユネスコエコパーク活動報告会で発表した。

以上の経験を通して、協働力、科学的思考力、表現力が身についた。

③ 米国を知る研修に係わる学習

平成30年3月18日（日）～24日（土）の日程で、姉妹校であるアメリカ合衆国アイオワ州デモイン市セントラルキャンパス校にて授業に参加し、ホームステイを行った。今年度の参加者は16名（男子10名、女子6名）であり、課題研究の成果をパワーポイントまたはポスターを使用し、英語で発表し、姉妹校生徒・保護者・職員と意見交換を行った。また、事前準備プログラムとして、海外研修に向け、コミュニケーション（英語運用）能力向上・異文化理解推進・グローバルな視点の構築を目的とし、「米国を知る」ための様々なプロジェクトを行った。

④ 韓国・インドネシア研修に係わる学習

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島主催の韓国江華島スタディツアーに2年生の生徒2名が参加した。日韓の若者たちが相互に交流し、現場を体験し、地域の自然環境の保全のあり方や若者の役割などについて議論し、解決策を考え、相互理解を深めることを目的とした6日間のプログラムであった。また、ユネスコ協会連盟主催の第8回ESD国際交流プログラムに2年生の生徒1名が参加者に選ばれ、3月下旬にインドネシアに派遣された。事前学習・プログラムにおいて、各校のESDの取り組みを英語で発表し、事前に調べた課題テーマについて、現地高校生とディスカッションを行った。



① 回収した食品搬入の様子



② 南アルプスユネスコエコパーク活動報告会での発表の様子



③ 「国際交流の日」における英語でのプレゼンテーションの様子



④ 韓国研修における梅花藻水田視察の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(共同社会)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

ユネスコスクールとしての教育活動を行うため、教育課程の編成時に学校設定科目を設けている。教科は「学校外の学習」で、科目名は「ESD ボランティア」である。35 単位（50 分×35 週）以上の活動を持って 1 単位を認定している（上限は 2 単位）。単位認定の条件を満たすことで、増加単位として、修得が認められる。対象は全学年である。活動内容としては、地域のユネスコ協会や市民団体が主宰するボランティア活動等、或いは校内の学校活動として行われる活動に取り組むようにしている。全校生徒に「ユネスコESDパスポートを配布し、生徒が携帯する「巨摩高生の手引き」に活動内容を掲載することで積極的な参加を促している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

「総合的な学習の時間」を活用し、様々な課題に自主的に取り組み探究活動を行っている。探究した結果は、年に 1 度開催される「研究発表会」において、全校生徒へポスターセッションの形で発表している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

2 時間未満の活動で「ユネスコESDパスポート」の 1 ボラン、2 時間以上の活動で 2 ボランとする。30 ボラン以上でユネスコ協会の「ボランティア活動認定証」の交付を受け、またESD体験発表会で発表することで、単位の認定としている。成果と課題としては、3 年生が 30 ボラン分の活動を行ったが、その後、ESD体験発表会までの流れがスムーズに行われなかった。各団体との連携の強化が課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

ESDの推進拠点として取り組んだことは、本校ホームページで逐次発信している。特に地域の自然環境保全に関する内容である櫛形山の環境調査などについては、本校発行の『SSHnews』の中で発信した。また梅花藻による環境保全を学んだ韓国研修については、甲府地区のユネスコ協議会で発表した。山梨県高等学校芸術文化祭ユネスコ主張大会では、生徒会の代表が本校のフードドライブの取り組みを中心に世界の食糧事情を考える主張を発表し、最優秀賞を獲得し、来夏全国大会への出場権を得た。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

南アルプス市に拠点を置く「認定 NPO 法人フードバンク山梨」が実施しているフードドライブ活動に毎年夏、冬の2期にわたって取り組み、食品の回収、仕分け、運搬を行っている。また、南アルプス市櫛形総合公園陸上競技場で行われる特別支援学校スポーツ大会（山梨県特別支援学校体育連盟主催）に平成15年度から毎年約200名の生徒が競技運営ボランティア、学校担当ボランティアとして参加している。南アルプス青年会議所主催の小学生の職業体験事業のボランティアにも毎年多くの生徒が参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

南アルプス地区のいくつかの市立小学校とは、本校主催の理科実験のイベント「わくわくサイエンス」、市之瀬川での野外授業を通して、強い絆を作っている。いずれも高校生が小学生を指導する形態をとっており、互いに地域の自然をよく理解し守っていこうとする精神を共有できている。今後は、ユネスコスクールである市立櫛形西小学校に対しても、この取り組みへの参加を投げかけていきたい。また他の県内校との具体的な交流のあり方も探っていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

特筆すべきは、ユネスコスクールの活動を通じて、自らの社会環境について、生徒が自発的に考えようとし、積極的に行動しようとしている気運が醸成されてきたことである。ESDパスポートにより、自身の活動がはっきり記録されることで、以前よりも更に意欲的にボランティアに取り組む生徒が増えている。今年は認定初年度であったが、一年間で目標のボランを獲得し、増単申請した生徒もいる。各種研修についても、積極的に参加表明する生徒も増え、社会参加に能動的な姿勢を見せている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度と同様に、ボランティア、地域の自然環境の保全、国際理解を柱に、①フードバンク・スポーツボランティアに係わる活動、②楡形山の環境調査・ホタルの放流に係わる教育、③米国を知る研修に係わる学習、を行う予定である。

5月 ホタルの養殖と研究

7月 フードバンク

楡形山研修

10月 スポーツボランティア

11月 「米国を知る」事前研修（～2月）

フードバンク（～12月）

3月 米国研修

ホタルの放流